

『常に熱い人間でいたい』



昭ちゃんコロッケ株式会社

た な か よ し は る
代表取締役 **田中 美治**
山口商工会議所 2号議員

1948年生まれ。山口市銭湯小路で生まれ育ち、地元の小学校・中学校・高校を卒業。卒業後は、すぐに昭ちゃんの店（昭ちゃんコロッケの前身）に入社し、厳しい社長（現社長の父）の指導を受けながら修行を積む。1991年に代表取締役役に就任し、現在に至る。趣味はゴルフ（少し）と食べ歩き。もともと大変な偏食だが、肉が好きなので、肉の食べ歩きが多い。最近行ったところでは、滋賀県の近江牛。

【企業概要】

昭ちゃんコロッケ株式会社
住 所：(本社) 山口市銭湯小路 15
TEL：083-922-1005

まず、田中社長の生い立ちを教えてください。

私は、現在本社がある山口市銭湯小路15で生まれました。本当の意味で私の原点です。その後も、地域の小学校・中学校・高等学校に通い、卒業と同時の昭和40年3月10日に、当時の昭ちゃんの店に入社しました。

「昭ちゃんコロッケ株式会社」という会社について教えてください。

もとは「昭ちゃんの店」という会社で、昭和22年に食肉小売・卸業を私の父がスタートさせました。その後、昭和30年に有限会社として法人成りし、コロッケの製造を開始しました。父はいつも私に、「自分が満足できない商品を、お客様に売るな!」と厳しく指導していました。素材にも味にもこだわる、おいしいコロッケを作る努力を続けていました。

コロッケ製造を初めて32年経った昭和62年、第13回「全国手づくりコロッケコンクール」で金賞を受賞しました。

その模様がNHKで全国放送され、「昭ちゃんコロッケ」は、一気に知名度が高まりました。

平成3年頃からは、食肉の販売よりコロッケの販売が上回るようになり、平成8年株式会社に組織変更するときに、コロッケ販売をメインとする事業へとハンドルを切り、現在に至ります。今では、コロッケの売り上げが、全体の7割を占めています。

「昭ちゃんコロッケ」には、田中社長のこだわりの数々が詰まっていると伺いました。

じゃがいもは季節によって品質も変わりますので、時期によって産地を変えています。食肉業ですので、当然肉もおい

しい物を使います。何より、「なにも付なくてもおいしい!」というのが1番です。「昭ちゃんコロッケ」には、ソースはいりません。他のコロッケと違うのは、甘くないところ。おやつにもおかずにも、いくつでも食べられる、おいしいコロッケです。

毎日、工場にいる社員全員で試食し、「今日のコロッケの味」を確認するようにしています。会社に入って39年間、かかさず食べてきた私の舌は確かですが、全員で食べることによって、私がいなくても、「最高のコロッケ」の味を維持することができます。私が怪我をして入院しても、おいしいコロッケが製造されています。

おかげさまで、現在では、北は北海道から南は鹿児島まで、全国の観光地

**全国手造りコロッケコンクール
金賞受賞!**



全国金賞に輝いたコロッケは、天下一品!



宮野にあるコロquetteなどを製造している工場



昭ちゃんコロquette本店

や高速道路のパーキングで「昭ちゃんコロquette」を販売していただいております、毎日全国のどこかに、山口で製造したコロquetteが配達されていきます。

所属団体の活動でもご活躍と伺いました。

平成18年に山口県食肉生活衛生同業組合の副理事長に就任し、平成24年からは理事長を務めさせていただいています。立場上、全国規模の会議等に出席させていただく機会も多いのですが、初めて参加した全国規模の総会で挙手して発言しました。周囲からは「新参者がなんだ?!」という印象だったと思いますが、初めて参加した会議ですので、まずは顔と名前を覚えてもらおう!という意気込みで、自己紹介を兼ねて、それまで考えていたことを発言しました。

レバーやユッケの食中毒がニュースになった時期で、食肉業界は打撃をうけていましたので、「省庁に働きかけて、組合員か否かにかかわらず、講習を受けたり、指導を受けられるようなルールを作って欲しい」と発言しました。一部の、ルールを知らない・守らない者の問題が、業界全体の問題として取りざたされます。

食中毒などの問題が起こると、組合には県や市から通達が来るのですが、組合に所属しない者には、何の連絡もなしというのでは、問題は解決しないと考えました。

発言から2年が過ぎましたが、まだこの課題は解決されていません。今年の全国大会は仙台で行われますので、その時にも発言したいと思っています。

私は団体の代表として出席しているので、私だけでない、組合員全員に責任を持たねばなりません。必要と思うことは発言します。

私の気持ちを評価していただき、平成21年には全国食肉生活衛生同業組合連合会会長表彰を、平成25年には、山口県知事表彰を受けさせていただきました。

ご商売に関しては、これまでも様々な苦勞をされたと思います。

私の父は、大変厳しい人でした。幼い頃から余計なお金は与えず「お金のありがたみを知れ」という教育方針でした。また、仕事に関しても厳しく、私の初任給は1万4000円。現在は、大学を卒業して会社に戻ると、いきなり役員に就任する方も多いと思いますが、私は、工場内の掃除や肉を切る仕事から始まりました。「修行」ですね。

一番底辺の仕事を知らなければ、上に立つ事は出来ない。底辺の仕事ができるから、社員の大切さがわかるし、仕事の大変さがわかります。

唯一のコンプレックスは、高校生の時、担任の先生から「大学に進学しろ」と進められたのを断って進学しなかったことでしょうか。当時若かった私は、今のような学歴社会になるとは考えていなかったの、「大学を出ても、肉屋を継ぐことは変わらない。だから、早く父親の元で修行がしたい」と考え、進学を断りました。

私は、学歴に関係なく、どんな仕事でも負ける気はありません!が、唯一気になる所です。

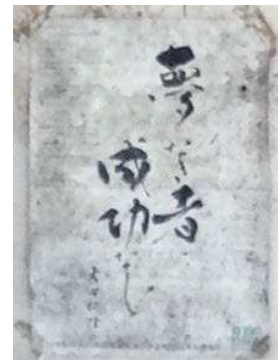
「常に熱い人間でいたい」という事ですが。

常に、山口市一、山口県一熱い人間でいたいと思っています!

いつでも夢を持って、夢を語る人間でいたい。熱い思い・気持ちは行動に移し、その思いはお客様にも伝わると信じています。熱くなりすぎて、涙が出ることもあります。その位、いつでも情熱的に取り組んでいる、ということです。

私の大好きな言葉に、「夢無き者に成功無し」という言葉があります。これは吉田松陰の言葉です。私は今でも、「もっとおいしいものを作りたい!」、「山口というまちを、こんな風になりたい!」と考えています。色々なところを食べ歩

きや旅行しますが、「このまちのこういうところが素晴らしい!これは山口でも取り入れたい!」と思う事が多々あります。先日滋賀県を訪れた際、帰りに京都の錦市場を訪れましたが、山口の商店街が、あのような形になったらいいのにと強い思いを抱きました。いつでもまちのことや、仕事のことを考えています。



「夢無き者に成功無し」の格言は、いつも目に触れるところに貼ってあります

熱い気持ちを持って夢を語らなければ、実現できるはずのものも実現できません。ガチガチの話し合いでは、良いアイデアも出ないと思います。もっとみんなが、なんでも言い合える場を持って、みんなの熱い思いを語り合えたらと思います。

今は、「自分だけ良ければ良い」という時代ではありません。街のみんなが良くなって初めて、山口市で商売をする人間も、生活する人間も幸せになるのだと思います。

これからの山口市に必要なものはなんだと思いますか?

若者が、夢を語るまちにして欲しいですね。

また、山口市の顔である「大殿地域」の貴重な財産を、もっと大切にしたいです。一の坂川、大殿大路、五重塔など、大殿地域には歴史的・文化的に貴重な財産がたくさんあります。これらの財産は、一度失われてしまうと二度と元には戻りません。大殿地域の財産をこれからも活かしながら、まちを活気づけて行ければよいと思います。

人生は1度きりで、時間は元には戻らない。だから、いつでも熱く生きたいと思っています。ほんやりして過ごしても同じ一生なら、熱い思いを持ちながら、夢を持って生きていきたいですね!